

理科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・自然の事物、現象に理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などの基本的な技能を身に付けること。	・観察や実験の結果から、課題を見付けだし、探究する力をつけ、自分の力で表現できること。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・観察・実験に必要な技能が、身に付いていない。 ア ・目的とする観察・実験の結果を得ることはできるが、そこから課題を見つけ出す力が十分にない。 イ	・動画を利用しながら理解を促し、定期的に確認テストを行う。 ア ・補充課題を出し、考え方が定着しているかどうかを確かめる。 イ	・実験の授業毎 ・実験の授業毎	ア視覚的な導入は、本時の目標の理解に効果があった。 イ考え方の定着は確認できたが、知識が、観察・実験の結果の分析につながる場面とつながらない場面はあった。
第2学年	・1年時の観察や実験の基本的な技能は身に付いているが、経験が不足している。 ア ・結果から課題を見つけ出せるが、科学的根拠とつなげて表現する力が十分ではない。 イ	・実験をできる限り行い、実験技能を身に付ける。問題集を利用して知識の定着を確認する。 ア ・ICT機器を活用し、全体でまとめを共有・比較することによって、明確な根拠をもった考察につなげる。 イ	・実験の授業毎 ・実験の授業毎	ア行った実験に関しては、実験技能は身に付いた。実験する機会も増やすことができた。知識の定着度は小テストではかることはできた。 イICT機器の活用で、情報の共有や比較を行えた。そのことで考察する視点が身に付き、表現できるようになってきた。
第3学年	・実験の基本的な技能は身に付いているが、結果を分析し、理解するための知識の定着が不十分である。 ア ・結果を整理することはできるが、結果が示す科学的根拠につなげる考察力が十分ではない。 イ	・ICT機器の利用で可視化し、理解を促す。問題集を利用し、知識の定着を図る。 ア ・各自の実験のまとめを、ICT機器の共有機能を利用してクラス全体で考えさせ、明確な根拠をもった考察につなげさせる。問題集を利用して、考え方の定着を確認する。 イ	・10月から12月 ・2学期から実施	アICT機器の効果的な活用はできた。問題集を利用した知識の定着に努めた。 イグループワークを通して、結果を明確な根拠をもとに考察につなげる視点を育成することができた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について
1年 付箋機能、共有機能の活用（書き出し、整理、共有） 【重点：個別・協働】
2年 レポート作成と共有機能の活用【重点：個別・協働】
3年 インターネットを活用した情報の収集と整理、共有 【重点：個別・協働】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
1年 振り返りシートを活用した小単元の振り返りの実施
2年 生徒が行うまとめを活用した授業の振り返り
3年 振り返りシートを活用した毎時間の振り返りの実施と単元ごとのループリックの配信